

05 教員相互の授業参観

教育学部における教員相互の授業参観は、教育学部が開学した平成 26 年度より実施している。その目的は、本学部専任教員による教養・専門等の授業が、授業参観のアンケート項目としての「動機づけ、学生とのコミュニケーション、授業方法など」の面において適切に行われていることを教育学部の同僚教員の目を通して確認・検証すること目的としている。従って、教育学部における教員の授業改善は、学生による授業評価を受けて授業点検シートにおいて改善することを明記し、さらに教員相互の授業参観において指摘された改善項目を学部長が伝えることにより行う二重の手続きにより、教育の質を保証するように意図している。

今年度、2 人の教員について、それぞれ教員による授業参観を行い、幾つかの改善点の指摘があった。このことについて、令和 4 年 9 月 8 日初任者研修の際に下記のスライドにより改善をお願いした。

教員相互の授業参観における指摘 (真摯に受けとめること)

▶石濱先生

- 学習指導要領は最新のものを使用すること(配布された講義資料は古い)
- 一方通行の授業→アクティブラーニングの手法の活用
- シラバス通りに実施すること
- 言語明瞭に

▶有嶋先生(菅先生→途中から国語科教育法を担当)

- アクティブ・ラーニングとの取り入れの工夫が必要。「させる」手法に偏っている。
- 一方通行的な講義?指導する?教える授業?のように感じられた。新学習指導要領で期待される「学び(対話的・深い学び)」を取り入れる必要!
- 後期からは、国語 I & II を担当する他、学生教職支援センターの業務を

21

以上

教育学部 FD

新任教員の授業参観

新任教員の授業参観の結果について、以下のように報告します。

対象者	石濱 博之
授業科目名(開講学部・対象学年、受講者数)	英語科教育法 I (教育学部 1 年、30 名)
授業参観日時(教室)	令和4年 7 月 12 日(1-524 教室)
参観者	教員2名

評価:あてはまる(4点)、ある程度あてはまる(3点)、あてはまらない(2点)、全くあてはまらない(1点)

動機付け	平均評点
1) 授業のテーマ・内容はシラバスに記載されていた	3.0
2) 授業の目的について明確に示されていた	2.5
3) 授業を通して、どのような知識・スキル(到達目標)が身につくのかについて明確に示されていた	2.0
4) 授業全体のレベルは適切なものであった	2.5
5) 学生の理解を促すために効果的な確認・振り返りが行われていた	2
6) 学生が持っている知識と関連づけた内容、説明となっていた	2.0
7) 身近な事柄・事例と関連付け、わかりやすい内容、説明となっていた	2.0
8) 学生の理解を促す効果的な教育手法(例えば、アクティブラーニングなど)を活用していた	2.0
9) 学生の理解を促す効果的な教材を活用していた	2.0
10) 授業時間外学習を促すような指示・工夫がなされていた	1.5
学生とのコミュニケーション	
1) 学生たちの理解度を確認しながら授業をすすめていた	2.0
講師について	
1) 講師の授業に対する熱意が十分に感じられた	2.5
2) 講師は十分な準備をした上で授業にのぞんでいた	2.0
技法	
1) 声の大きさは適切であった	2.5
2) 話すスピードは適切であった	2.5
3) 学生の理解を促すよう効果的にスライドを使用していた	2.0
4) わかりやすいスライドになっていた(構成・字の大きさ)	2.5
5) 学生の理解を促すよう効果的に板書を使用していた	1.0
6) わかりやすい板書になっていた(構成・字の大きさ)	1.0
7) 学生の理解を促すよう効果的に資料・レジメを使用していた	2.0
8) わかりやすい資料・レジメになっていた(構成・字の大きさ)	2.0

改善点、工夫していると思われる点や良い点について、具体的にお書きください	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に対する思いはたくさん示されていたが、学生に伝わったかは不明。資料もたくさん示されていたが、発行年度の古い・古すぎるものが多い。改訂版がないのか。新学習指導要領とのつながりは確認されているのか不明。 ・講義の声等がはっきり聞きづらいところあり。早口、つぶやきあり。学生へ指名などあまりなかった。 ・学生の反応を捉えているのかも心配である。 ・最新の学習指導要領が使う必要があるのではないか。 ・その他、一方通行の授業となっているとの指摘。
自分の授業等に取り入れたいアイデア等があれば、具体的に書いてください	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、なし

教育学部 FD

新任教員の授業参観

新任教員の授業参観の結果について、以下のように報告します。

対象者	有嶋 誠 先生
授業科目名(開講学部・対象学年、受講者数)	国語科教育法 I (教育学部3年、35名)
授業参観日時(教室)	令和4年7月11日 2限目(2-307教室)
参観者	教員2名

評価:あてはまる(4点)、ある程度あてはまる(3点)、あてはまらない(2点)、全くあてはまらない(1点)

動機付け	平均評点
1) 授業のテーマ・内容はシラバスに記載されていた	4.0
2) 授業の目的について明確に示されていた	3.5
3) 授業を通して、どのような知識・スキル(到達目標)が身につくのかについて明確に示されていた	3.5
4) 授業全体のレベルは適切なものであった	3.5
5) 学生の理解を促すために効果的な確認・振り返りが行われていた	2.5
6) 学生が持っている知識と関連づけた内容、説明となっていた	3.5
7) 身近な事柄・事例と関連付け、わかり易い内容、説明となっていた	3.5
8) 学生の理解を促す効果的な教育手法(例えば、アクティブラーニングなど)を活用していた	3.0
9) 学生の理解を促す効果的な教材を活用していた	3.5
10) 授業時間外学習を促すような指示・工夫がなされていた	2.0
学生とのコミュニケーション	
1) 学生たちの理解度を確認しながら授業をすすめていた	3.0
講師について	
1) 講師の授業に対する熱意が十分に感じられた	3.5
2) 講師は十分な準備をした上で授業にのぞんでいた	3.5
技法	
1) 声の大きさは適切であった	4.0
2) 話すスピードは適切であった	3.0
3) 学生の理解を促すよう効果的にスライドを使用していた	3.5
4) わかりやすいスライドになっていた(構成・字の大きさ)	4.0
5) 学生の理解を促すよう効果的に板書を使用していた	—
6) わかりやすい板書になっていた(構成・字の大きさ)	—
7) 学生の理解を促すよう効果的に資料・レジュメを使用していた	3.5
8) わかりやすい資料・レジュメになっていた(構成・字の大きさ)	3.5

<p>工夫していると思われる点や良い点について、具体的にお書きください</p>	<p>・アクティブ・ラーニングとの取り入れの工夫が必要。「させる」手法にかたよっている。学生の学び合う資質の不足もあると思いますが、評価も含めて確認が必要。一方的に伝える、指導する?授業?と感じられた。新学習指導要領で期待される学びの在り方の取り入れが必要ではないか。</p> <p>・授業外学習の時間の活用を図って準備を進めると学生の意欲や技能の定着が図れると思う。</p> <p>・国語を指導してみたいと思えるような内容であった。群読についてグループ(6名~7名)で実践させていた。(詩の分析と群読の練習時間が短いので、授業外学習で個別に分析、台本案を作成させ、その台本を持ち寄って授業中に検討させ、授業外で練習させた上で、台本を見ずに発表できれば一層よいのではないかと考えた)。</p>
-----------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間の試験を行い、国語の知識の定着を図っていた。 ・学生の発表は未熟な部分があったが、否定せず受け入れることで、学生の「まずは、行動してみよう」とする意欲を喚起していた。
<p>自分の授業等に取り入れたいアイデア等があれば、具体的に書いてください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分析・練習の時間が少ないなりに、学生は発表までできた。学生は意見交換した上で、創作した体験ができた。(時間をかけて、分析・台本作成・意見交換を行った上で練習し、発表すれば一層力を発揮できたのではないか) ・個別に調査したことをもとに、グループで意見交換をし、工夫改良して造形表現をするというグループ活動を新しい科目「幼児と表現」で取り入れたい。

教育学部授業参観アンケート

教員（授業参観者）氏名（ ）
 所属（ ）

1. 同僚教員（授業担当者）氏名（ ）
2. 授業科目名（ ）
3. 開講学部・対象学年（ ）
4. 受講者数（ ）
4. 授業参観日時
- ①参観日・時限（ 年 月 日 限目）
- ②教室（ ）

5. あなたの印象にもっとも近い箇所に○をしてください。

○動機付け

	あてはまる (4点)	ある程度あ てはまる (3点)	あまりあて はまらない (2点)	全くあては まらない (1点)
(1) 授業のテーマ・内容はシラバスに記載されていた				
(2) 授業の目的について明確に示されていた				
(3) 授業を通して、どのような知識・スキル（到達目標）が身につくのかについて明確に示されていた				
(4) 授業全体のレベルは適切なものであった				
(5) 学生の理解を促すために効果的な確認・振り返りが行われていた				
(6) 学生が持っている知識と関連づけた内容、説明となっていた				
(7) 身近な事柄・事例と関連付け、わかり易い内容、説明となっていた				
(8) 学生の理解を促す効果的な教育手法（例えば、アクティブラーニングなど）を活用していた				
(9) 学生の理解を促す効果的な教材を活用していた				
(10) 授業時間外学習を促すような指示・工夫がなされていた				

○学生とのコミュニケーション

	あてはまる (4点)	ある程度あ てはまる (3点)	あまりあて はまらない (2点)	全くあては まらない (1点)
(1) 学生たちの理解度を確認しながら授業をすすめていた				

○講師について

	あてはまる (4点)	ある程度あ てはまる (3点)	あまりあて はまらない (2点)	全くあては まらない (1点)
(1) 講師の授業に対する熱意が十分に感じられた				
(2) 講師は十分な準備をした上で授業にのぞんでいた				

○技法

	あてはま る (4 点)	ある程度 あてはま る (3 点)	あまりあ てはまら ない (2 点)	全くあて はまらな い (1 点)	本技法 は該当 しない
(1) 声の大きさは適切であった					
(2) 話すスピードは適切であった					
(3) 学生の理解を促すよう効果的にスライドを使用していた					
(4) わかりやすいスライドになっていた (構成・字の大きさ)					
(5) 学生の理解を促すよう効果的に板書を使用していた					
(6) わかりやすい板書になっていた (構成・字の大きさ)					
(7) 学生の理解を促すよう効果的に資料・レジユメを使用していた					
(8) わかりやすい資料・レジユメになっていた (構成・字の大きさ)					

6. 工夫していると思われる点や良い点について、具体的にお書きください

7. 自分の授業等に取り入れたいアイデア等があれば、具体的に書いてください

※本シートの内容を確認し、FD委員会委員長に提出してください。